

会議録

会議の名称	第6回朝霞市総合計画策定委員会
開催日時	令和6年4月30日（火） 午前 8時53分から 午前 9時08分まで
開催場所	朝霞市役所 別館3階 市長公室
出席者及び 欠席者の 職・氏名	<p>【出席者】 稲葉市長公室長、千葉危機管理監、須田総務部長、紺清市民環境部長、佐藤福祉部長、堤田こども・健康部長、松岡都市建設部長、村沢審議監兼まちづくり推進課長、田中会計管理者、益田上下水道部長、太田議会事務局長、小島学校教育部長、奥山生涯学習部長、神頭監査委員事務局長</p> <p>（事務局） 櫻井市長公室次長兼政策企画課長、齋藤同課主幹兼課長補佐、石崎同課政策企画係長、山本同課同係主任</p> <p>【欠席者】 なし</p>
議題	1 第5回朝霞市総合計画策定委員会及び第4回朝霞市総合計画審議会の議事について（報告） 2 第5次後期基本計画総括評価シートについて
会議資料	<p>【資料1】 第5回朝霞市総合計画策定委員会・第4回朝霞市総合計画審議会における指摘事項及び対応</p> <p>【資料2-1】 第5次朝霞市総合計画後期基本計画総括評価シート</p> <p>【資料2-2】 第5次朝霞市総合計画後期基本計画総括評価シート（記入例）</p> <p>【資料2-3】 第5次朝霞市総合計画後期基本計画 抜粋</p>

会議録の 作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	■要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の 当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 出席者の確認及び事務局の決裁	
傍聴者の数	—	
その他の 必要事項	なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【開会】

【議題】

- 1 第5回朝霞市総合計画策定委員会及び第4回朝霞市総合計画審議会の議事について（報告）

【説明】

（事務局：石崎政策企画課政策企画係長）

第5回朝霞市総合計画策定委員会及び第4回朝霞市総合計画審議会の議事について報告する。

資料1、策定委員会における指摘とその対応についてだが、基礎調査については、まず、18ページの産業に関する都市比較について、指標の表現と下段の説明文の表現が一致していないという指摘を受け、正しい表現に統一した。

次に、19ページの就労に関する都市比較について、下段の説明には「完全失業率、若年層の完全失業率」とあるが、上の表には若年層の完全失業率しか記載されていないという指摘を受け、下段の説明を若年層の完全失業率のみに修正した。

次に、19ページと20ページだが、自市内従事割合の表現が統一されていないという指摘を受け、正しい表現に統一した。

最後に、27ページだが、グラフの数値の合計と下段の説明文の数値が一致していないとの指摘を受け、正しい数値に修正した。

なお、基礎調査は財政推計資料や参考図表を追加した資料として作成しており、完成次第、配布する。

続いて、第5次後期基本計画総括評価シート・第6次新たな基本計画検討シートについては、後期基本計画総括評価シートについて、大柱で達成・未達成を記述するのは難しいのではないかと意見を受け、大柱の記載欄を削除した。

次に、同じく後期基本計画総括評価シートについて、達成状況の基準があいまいで、判断が難しいのではないかと意見があったが、一方で、外部評価委員会において、達成状況はあった方がよいとの意見があったことから、AからDまでの4段階で評価してもらいたいと考えている。

最後に、前期基本計画総括評価シートについて、前期基本計画の総括として、令和元年度と令和2年度は行っていないが、どのように考えているかとの質問があったが、単年度での評価は行っているため、その結果を含めて前期基本計画の総括として利用したいと考えている。

審議会における主な意見とその対応についてだが、資料全般として、本市の合計特殊出生率は県内で見れば高いが、人口置換水準である2.07には遠く及ばないため、「高い」という表現は使わない方がよいという意見を受け、関連箇所を精査し、表現を検討することとしている。

続いて、分野別市民懇談会報告書については、市民の意見がどのように反映されたかフィードバックがあるとよいとの意見があったため、市民意見の反映や公表の仕方について、今後検討したいと考えている。

続いて、人口推計資料については、まず、全市・長期というマクロ的な視点ではなく、

各地域・短期といったミクロ的な視点が必要ではないかという意見があったが、各地域別の推計は、推計パターンの絞り込みが完了してから実施することとし、また、国の人口推計も長期スパンで行っている点を踏まえ、市としてもマクロ的な推計を行い、急激な社会情勢の変化などがあった場合は、その時のすう勢も踏まえながら見直しを検討したいと考えている。

次に、朝霞市の合計特殊出生率は低下傾向にあり、東京都の人口も減っていく中、人口推計は厳しめに見ておく必要がないかという意見を踏まえ、他のパターンも検討したいと考えている。

最後に、将来の人口がどうありたいか、という議論が大切なのではないかとこの意見を踏まえ、現実的には「出生低位」となるかもしれないが、朝霞市では子育て支援策も行っているため、将来的に出生率を維持するという姿勢を表すためにも「出生中位」としたいと考えている。

なお、人口推計は前回の審議会で方向性を示してもらうことを想定していたが、いろいろな意見があったことを踏まえ、一旦、結論は持ち越しとしている。

続いて、基本構想の骨格案については、まず、基本構想の構成について、将来像実現のための共通理念の立て付けが分かりづらいとの意見があったため、第5次総合計画と同様のビジョン、基本方向、政策分野、共通理念の構成で検討したいと考えている。

次に、コミュニティが希薄化していく中、今一度、みんなでやっていくという観点の強調が必要との意見を複数もらったため、意見を踏まえて検討したいと考えている。

なお、基本構想の骨格案も一定の方向性を導く意見をもらえなかったため、改めて審議会に諮ることになっている。

次に、第5次後期基本計画総括評価シートについては、評価に関する他市事例には疑問なものも多く、市の取組がどのような成果につながるのか等、ロジックモデルの考え方を取り入れた方がよいとの意見をもらったが、第5次総合計画の前期・後期を総括する上で後期のみ評価手法を変えることは難しいため、第6次総合計画を評価する際の参考にしたいと考えている。

最後に、審議会の進め方全般について、抽象論から議論すべきではなく、地域の実情、市民の意見、第5次総合計画の評価等を踏まえ、具体的な課題と方策から計画を組み上げ、議論していくべきではないかとの意見をもらったが、市としては、まずは将来像を描いた上で、その将来像を達成するための施策を検討することとし、個別具体的な課題への対応は基本計画等の中でしていき、基本計画を作りこんでいく中で、必要に応じて基本構想に立ち帰って手直しをすることとしたいと考えている。

説明は以上である。

【質疑等】

(佐藤福祉部長)

地域的なミクロ的な視点が必要、各地域別のデータが不足しているという意見があったようだが、今後、総合計画を策定する上で、地域ごとの人口や施設の状況も考えながら組み立てていくのか。

どのような方向性で進めるのか、考え方を聞きたい。

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

事務局としては、朝霞市全体の最上位計画として、マクロ的な視点で作っていきたいと考えている。

ミクロ的な視点については、個別具体の計画で検討すればよいと考えている。

(須田総務部長)

事務局の考え方に賛成である。

市全体として、この10年間どうあるべきかを掲げ、そこに向かっていく上で地区別の差などがある場合には、地区ごとの細かい計画の中でそれを埋めていけばよいのではないか。

資料1の6、連番2の内容はとても重要な視点で、審議会委員にも理解してもらえよう、丁寧に説明する必要があると思う。

色々な実情が市の地域によって違うのは分かるが、総合計画は将来像を掲げ、それに向かって市として一体的に取り組んでいくという大きな流れを作ることが重要であり、個別的なものはその中の一つとして考えていけばよいと思う。

【結果】

資料に示したとおり対応を進める。

【議題】

2 第5次後期基本計画総括評価シートについて

【説明】

(事務局：山本政策企画課政策企画係主任)

第5次後期基本計画総括評価シートについて説明する。

資料2-1は、前回の策定委員会及び総合計画審議会での意見を踏まえ、修正を加えたもので、資料2-2は、資料2-1の記入例となっている。

前回からの主な修正点については、まず、大柱について、成果等を記述するのは難しいのではないかとの意見があったため、大柱は、中柱の内容の積み上げにより把握できるものと考え、「Ⅱ主な取組・成果」、「Ⅴ第三者機関からの評価等」、「Ⅵ今後の課題」における大柱の欄を削除した。

なお、アルファベットで行う「達成状況」の欄については、「Ⅰ目指す姿」の右側に移動させ、残しているが、この評価に当たっては、中柱の達成状況の平均から、半ば機械的に導き出すことを想定している。

次に、「Ⅱ主な取組・成果」について、前回は左側に「達成できたこと」、右側に「達成できなかったこと」を記入するレイアウトとしていたが、左側に「計画策定時の現状と課題」、右側に「主な取組・成果」を記入するレイアウトへと修正している。

これは、達成できなかったことを記述するのが難しいのではないかとの意見を受け、また、アルファベットでの「達成状況」の評価を、数値に基づかない定性評価により行う上で、左右の比較により、評価の理由を確認しやすくすることを狙い、見直しを行ったためである。

資料2-3は後期基本計画冊子の抜粋だが、赤い太枠で囲われた箇所の記載内容を、評価シートの左側、「計画策定時の現状と課題」に引用する作りとしている。

このシートは、前期基本計画と後期基本計画で評価の視点に大きな差が生じないように、大幅な変更は加えない方向で作成しているため、その他の箇所については、前期基本計画の評価シートの作成時と同じ要領で記入してもらうことを想定している。

なお、今後の流れとしては、この委員会後、必要に応じてシートの微調整をした上で、準備が整い次第、全庁にシートの作成依頼を行い、取りまとめた上で、7月の外部評価委

員会において評価をしてもらうことを考えている。
説明は以上である。

【質疑等】

なし

【結果】

示したシートでの庁内照会の準備を進める。

【その他】

(事務局：櫻井市長公室次長兼政策企画課長)

今後の予定だが、第5次後期基本計画総括評価シートについては、近日中に担当課へ照会を行う。

次回の策定委員会については、開催の予定が固まり次第、改めて連絡する。

【閉会】